

苦労を重ねた すべての皆さんの想いを胸に

与謝野町長 山添 藤真

— ともに創る^{つく}与謝野を実現する —

この3年間、住民の皆さんは「100年に一度の公衆衛生上の危機」と言われる状況の中、他人を思いやる気持ちを大切に、たとえ新型コロナウイルス感染症に罹患したとしても、安心して地域社会で療養できる状況を作り上げていただきました。また、医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆さんにおいては、地域社会が安定的に運営されるよう、自身の健康が害される危険性を承知のうえ、ご貢献いただきました。私は、住民の皆さん、医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆さんの勇気ある対応に、鼓舞されてきた一人です。

これまでの間、住民・事業者の皆さんの献身的な貢献と、コロナ禍で思いどおりに営業ができなかった経営者たち。仕事を失ってしまったと嘆いておられた若いお父さん・お母さん。ふれあいサロンなどの集まりに行くことができず生きがいをつくれなかったおじいちゃん・おばあちゃん。大学生になってもキャンパスに通うことなく友達をつくることのできなかつた町出身の若者たち。ワイワイガヤガヤしながらお昼ごはんを食べることができなかった児童・生徒たち。仕事に追われ家族と十分な時間を過ごすことができなかった職員たち。苦労を重ねたすべての皆さんの想いを胸に刻み込み、



与謝野町二十歳の成人式 (令和5年開催)

来年度を住民の皆さんとともにポストコロナ社会を創る年と位置づけ、「ともに創る^{つく}与謝野」の実現をめざします。

— 変化する社会

新型コロナウイルス感染症は、地域社会に感染の不安や事業の売り上げ低下による経済的な心労、外出自粛による行動制限がもたらすストレスなど、強い負の影響を与えました。加えて、昨年のロシアによるウクライナ侵攻を起因とする経済情勢の悪化により、国内においても電気やガス料金の価格高騰を引き起こしています。しかしながら、地域社会に目を向けると、このような逆境下においても、住民・事業者の皆さんによって未来を見据えたチャレンジや創意工夫が重ねられています。

— めざす3つの姿

変化しつつある地域社会の現状を的確に捉え、本町の可能性と希望を育んでいくために重要なことは、第2次与謝野町総合計画（以下、「第2次総計」）の基本構想で示した、
● みんなの手でまちづくりを進めること
● 未来世代のためにも未来志向のまちづくりを進めること
● みんなにとってみえるまちづくりを進めること
の3つだと考えています。
令和3年度、4年度には、住民の皆さんに参画いただき「第2次総合計画後期基本計画」を策定するための議論を進めてきました。ここ近年



宮津天橋高校加悦谷学舎で実施した「よさのみらい会議」

の社会経済情勢などの変化を踏まえ、私たちのまちが進むべき道筋や実施していくべき政策などを明らかにすることができました。

合併後、「水・緑・空 笑顔がややくふれあいのまち」をスローガンに、私たちは美しい水と緑、澄んだ空に代表される自然との調和を大切にしながら、一人ひとりの笑顔が輝く、ふれあい豊かなまちをめざしてきました。この想いを尊重しつつ、第2次総計では「人・自然・伝統 与謝野で織りなす新たな未来」を未来像として掲げています。これには、経糸と緯糸が交わり風合い豊かな丹後ちりめんが織りなされていくように、自然と伝統が交わりながら、まちの主人公である住民一人ひとりが与謝野町の新たな未来を創るという意味が込められています。
令和5年度は、第2次総計後期基本計画の初年度です。改めて第2次



経糸と緯糸が交わりながら織り上げられる丹後ちりめん

総計で掲げた基本理念や政策を粘り強く実行していくことを、役場の基本的な行動原理とします。

3 つの重点プロジェクト

よさのみらい会議プロジェクト

まちづくりの担い手が生まれたり、育まれたり、また実践者同士がつながることの場づくり



まちの魅力発信・応援プロジェクト

まちに住む人々の愛着や誇り、地域資源の魅力発信を強化するとともに、地域で取り組まれる多様な活動を応援する仕組みづくり



地方創生プロジェクト

まちや地域に対する愛情を持った「ひとづくり」に取り組み、その人財による「しごとづくり」「まちづくり」を推進し、人口減少を抑制する

